

ODIP 4.3 修正パッチ (P1040307005882) リリースノート

2024/4/30

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. Snowflake データロード機能の改定	4
2. その他の修正.....	6
B. バージョンアップによる影響	6
C. パッチの適用方法.....	6
1. ライブラリファイル、設定ファイルの更新	6
2. パッチ適用後の確認.....	7

A. 変更内容

1. Snowflake データロード機能の改定

(1) 分割ファイルをサブフォルダに作成・ロードする機能の追加

分割ファイルを Amazon S3 の外部ステージにアップロードする処理中に、他の処理で共通のデータフォルダ内のファイルが削除されると、warning が発生し ODIP の処理が異常終了する場合があります。処理ごとの専用のサブフォルダに分割ファイルを書き出してからロードする機能を追加しました。サブフォルダを使用するために、snowflake.properties に次のオプションを追加しました。

オプション名	説明	既定値
loader.file.split.subdirectory	true にすると、処理ごとの専用のサブフォルダを作成して分割ファイルを書き出し、S3 ステージにも同名のサブフォルダを作成してアップロードします。圧縮機能を併せて使用するとサブフォルダ内に圧縮ファイルが作成されます。分割機能を使用していない、または指定サイズ未満で分割する必要がない、などの場合はサブフォルダは使用されません。 false にすると、サブフォルダは使用されません。	false

(2) ファイルの圧縮機能の改定

- ① ファイルを gzip 形式で圧縮する際、外部の gzip コマンドを呼び出すのではなく ODIP 内部で圧縮するように変更しました。この改定により Windows など、gzip コマンドが導入されていない環境でも圧縮機能が利用できるようになりました。
- ② ファイル分割ありで圧縮を行う際、複数の分割ファイルを並行で圧縮できるようになりました。実行環境の CPU コア数によっては、以前のバージョンと比較して分割ファイルの圧縮処理の時間短縮が見込めます。並行で圧縮するために、snowflake.properties に次のオプションを追加しました。

オプション名	説明	既定値
loader.file.zip.maxparallels	複数の分割ファイルを圧縮する際、指定された数までのスレッドを使用して並列で圧縮処理を行います。指定したスレッド数を超えない場合は圧縮対象ファイル数のスレッドで処理します。	5

(3) オプションの変更

snowflake.properties の次のオプションを追加、変更または廃止しました。

オプション名	説明
loader.command.copy	一部を変更しました。
loader.command.internal.upload	
loader.command.internal.remove	
loader.command.external.upload	廃止しました。
loader.command.external.remove	
loader.command.external.cp.options	追加しました。指定した文字列を aws s3 cp コマンドに追加して実行します。
loader.command.external.rm.options	追加しました。指定した文字列を aws s3 rm コマンドに追加して実行します。

(4) その他 Snowflake 関連の修正

- ① execcopy を使用する場合、以前は分割ファイル、圧縮ファイルを元ファイルと同じフォルダに作成していましたが、odip.ini の job.loader.data.dir で指定されたデータフォルダに作成するよう変更しました。
- ② ファイル分割なしで圧縮のみ有効で execcopy を使用する場合、圧縮前の元ファイルは削除しないように変更し、圧縮後のファイル名は名前が重複しないよう”元ファイル名_00000000000.gz”の形式（00000000000 はランダムな数値）に変更しました。
- ③ ステージにコピーしたファイルはエラーの場合も含めて、常に削除するように変更しました。
- ④ snowflake.properties の loader.stage.type の指定が間違っている場合、エラーにするように変更しました。

2. その他の修正

- (1) JDBC のバッチ更新機能を使用した Teradata へのトランスフォーマリポジトリ作成でエラーが発生する問題を修正しました。

B. バージョンアップによる影響

既存の定義への影響はありません。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v4.3
- ODIP オペレーションマネージャ v4.3
- ODIP リポジトリマネージャ v4.3
- ODIP プロセスマネージャ v4.3
- ODIP リポジトリサーバ v4.3
- ODIP トランスフォーマ v4.3

1. ライブラリファイル、設定ファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040307005882 フォルダに格納されているライブラリファイル、設定ファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040307005882 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040307005882	ファイルのコピー先
lib	
ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

	config		
	ADM		
		jdbcsample	ODIP アドミニストレータの config 配下の jdbcsample フォルダ
	OPE		
		jdbcsample	ODIP オペレーションマネージャの config 配下の jdbcsample フォルダ
	RPM		
		jdbcsample	ODIP リポジトリマネージャの config 配下の jdbcsample フォルダ
	TFM		
		jdbcsample	ODIP トランスフォーマの config 配下の jdbcsample フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、選択されたすべてのビルド ID が 1040307005882 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから"ORMS サーバ情報"を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040307005882 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040307005882 であることを確認してください。

以上